

く足かけ2世紀連続エッセイ

## 毎日がパラダイス 吉村達也

### 第18回 コンピュータがもたらした平等の時代

8月号の「毎日がパラダイス」はとうしてスペースが縮小されたんだ、という抗議(う)のお手紙がいくつか編集部に届いているとのこと。ありがたい声援のお言葉と感謝していますが、今月も2ページ建てでご容赦ください。来月号からレギュラーの6ページサイズに戻しますので。

■規約作成作業に関する補足について  
さて規約に関する件ですが、6月号で「通訳」した私の内容に関して川崎さんから気になる点が二カ所あったので補足したいとのご連絡がありました。その第一は(規約作成作業とは、たんに現行の慣習を成文化すればよいと

いうものではなく、その背後に理論付けが必要である)ということ。そして第二は(慣習を成文化した後に、いずれ正式な規約づくりがあるような印象の書き方になっていたが、「それはあるまい」と考えている)という点です。この二つのポイントについての川崎さんのコメントも、それから私の通訳も少々スペースをとりますので、次号で詳しくご案内することにします。

とくに理論武装の必然性については川崎さんの作業の根幹をなす部分であり、そこを通訳することで諮問内容についての理解も非常に深まると思えますので、どうぞ来月号をお楽しみに。それにしても川崎さんや水上編集長

の懸念どおり、規約についての読者からの反応は鈍いようです。でも時が経てば徐々に感想その他が寄せられるだろうと、私は楽観的に構えています。この欄に載せてもいいと思われるご意見やご質問は気軽にどうぞ。

自分の意見が掲載された後、それに対する過激なリアクションが寄せられたりするのはないかというご心配は無用です。読者サロンについての水上編集長の方針と同じように、私も本コーナーでは「傍観者は面白がるけれど激論を交わす当事者同士は不愉快になつてしまう」ような盛り上がりを演出するつもりはありません。

これは私個人の意見ですが、かつての話パラでは血を流し合うような感情的激論の交換が名物になっていきました。そのノリは学生運動体験世代にはぴったりかもしれませんが、いまの若い人たちにはそういうのはあまり合わないんじゃないでしょうか。

## ■気持ちのよい意見交換の時代へ

鶴田主幹時代の読者サロンというの  
は、一見すると言いたい放題の非常に  
オープンな論争の場だったように思え  
ますが、そこには間接的な言論統制の  
力学が働いていた、と私はみています。

「ここで議論の輪に加わってヘタなこ  
とを言ったら、それに対するどんなす  
さまじい人格攻撃があるかわからない  
からやっぱり黙ってしよう」という恐  
怖心が、おとなしい読者の間に間違  
なく存在していた、ということです。

それに耐えられる神経の持ち主だけ  
が張り切って論争を展開していたのが  
かつての詰バラでした。皮肉にもその  
状況は、「言論の自由」という衣をま  
とった一種の「言論の弾圧」になっ  
ていたという事実には、主幹は気づいて  
おられなかったようです。

私は作家になる前、出版社の編集長  
として八年数ヶ月仕事をしてきました  
が、プロの目で昔のバラを読み返しま

すと、掲載すべきでない感情的暴論や  
意味不明の独り言が放置されすぎて  
いた感があります。かなりひどい人身攻  
撃でも自由な意見交換の一つとして容  
認されていた点では、やはり気弱な読  
者への気配りを欠いていたと言わざる  
を得ません。その人々も経営的にバ  
ラを支えてくれていたのに、です。

ただそれについては、鶴田さんが戦  
時中にもさしく言論を統制する側の特  
高警察に身を置いていたという背景を  
考慮に入れる必要があります。そうし  
た過去を持った鶴田さんだからこそ、  
戦後の新時代に於ける言論の自由の貴  
さを、自分の経営する詰バラで力い  
っぱい表現しようとした。その気概とい  
うものが、詰将棋バラダイスの明確な  
編集方針として表れていたわけです。

しかし、そうした鶴田マインドが大  
きく空回りしはじめたのが氏の晩年  
における詰バラではなかったでしょう  
か。きつい表現をするならば、あの時代の

詰バラは無神経なまでに自己中心的な  
人、それから詰棋力に圧倒的な自信を  
持ち周囲の評価も高い人、そして作品  
も意見も出さず傍観者に徹した人だけ  
が、安心してページを広げられるよう  
な雑誌でした。

でも、コンピュータの詰棋ジャンル  
での驚異的な進歩のおかげで、状況は  
すっかり変わりました。機械の能力が  
人間のそれを圧倒的に上回ってくれた  
おかげで、実力者の前では初心者はお  
さくなっていなければならぬという  
お稽古ごとの世界にありがちな上下関  
係は消滅し、本当の意味での平等さが  
詰棋界にやってきたのです。

これからは棋力やキャリアの差など  
関係なく、全員が対等の立場で気持ち  
よく意見を言い合える時代になる。そ  
のことこそコンピュータがくれた詰キ  
ストへの最大の贈り物ではないでしょ  
うか。規約に関する議論も、そうした  
土壌で行なえれば、と思います。